

2025（令和7）年度の取り組みについて

※ 令和6年度第1回伊賀市文化振興審議会資料「資料5-2」2024（令和6）年度の取り組みについて」を基に、取り組みについて下線を付しています。

■文化芸術との繋がりや情報共有

[課題]

- ・伊賀市文化振興条例、伊賀市文化振興ビジョンが十分に浸透していない。
- ・事業カードの取り組みや意見交換会が、しっかり定着していない。
- ・事業の告知や参加者募集など、各主体の情報発信を十分に共有できていない。

[取り組み]

- ・事業カードを基にヒアリングを実施し、単体事業のほかに、各分野との協力、連携、協働による文化的事業の可能性について検証する。
- ・意見交換会を定例化し、それぞれの取り組みに理解が深まる議論や、自分たちの活動がよりよくなるためにという視点を重視して、議論してもらえるようにする。
- ・各事業の取り組みを集約し、情報共有する方法を検討する。
- ・条例やビジョンの告知媒体への記載の取り組みについて、ロゴマークの作成など、より周知しやすい方法を検討する。

■子どもや障がい者等の文化芸術に触れる機会の充実

[課題]

- ・子どもや障がい者等、文化芸術に触れることが難しい人がいる。

[取り組み]

- ・学校や福祉施設などでのアウトリーチは、ニーズに合ったものを提供し、現場の負担にならないようにする。
- ・チラシなどが親の目に届き、親が興味を持てるように情報提供をする。
- ・地域の文化や歴史の継承のため、大人だけでなく子どもも参加できる取り組みをしていく。
- ・経済格差等により文化に触れられない子どもへのアプローチに取り組む。

■地域や事業者との連携

[課題]

- ・学校のクラブ活動の地域移行へのバックアップが必要。
- ・地域の現状課題の把握が必要。

[取り組み]

- ・学校のクラブ活動の地域移行を見据えて、学校と地域や商工会議所（事業者）、地元の文化芸術協会との理解や連携を図る。
- ・文化に触れることができない人がいることは人権問題である、という考えを持ち取り組む。